

日本労働社会学会会員各位

日本労働社会学会 通信第 21 期第 11 号 2009 年 11 月 9 日 (月)

日本労働社会学会事務局 (第 21 期)

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-4 横浜国立大学経営学部

小川 慎一 (おがわ・しんいち)

Tel & Fax: 045-339-3767 E-mail: sogawa@ynu.ac.jp 学会HP: <http://www.jals.jp>

★会費納入★恐れ入りますが学会費の納入は、現金書留ではなく、下記の口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号: 00150-1-85076 加入者名: 日本労働社会学会

【銀行振込口座】三菱東京 UFJ 銀行 浜田山出張所

口座番号: 普通預金 0411742 口座名: 日本労働社会学会 榎本環

年会費 学生・院生会員: 6,000 円 一般会員: 10,000 円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。 <http://www.jals.jp/discount/>

今後の日程:

1. 第 21 回大会

日時: 2009 年 11 月 20 日 (金)・21 日 (土)・22 日 (日)

会場: 佛教大学 <http://www.bukkyo-u.ac.jp/bu/guide/access/>

プログラム: <http://www.jals.jp/taikai/taikai09.pdf>

※観光シーズン中ですので、宿泊先や交通手段の早めのご予約をお勧めします。

2. 第 22 期第 1 回幹事会

日時: 2009 年 11 月 20 日 (金) 午後 18 時 30 分

会場: 佛教大学 11 号館 2 階会議室

アクセスマップ <http://www.bukkyo-u.ac.jp/bu/guide/access/index.html>

キャンパスマップ <http://www.bukkyo-u.ac.jp/bu/guide/access/campus/index.html>

3. 第 22 期第 2 回幹事会

日時: 2009 年 12 月 5 日 (土) 午後 13 時-15 時

会場: 未定

※同日の研究例会は開催いたしません。

もくじ

1. 訃報

2. 通信第 21 期第 10 号の訂正

3. 大会プレゼンポの報告

1. 訃報

本会特別会員の間宏先生が去る 8 月 5 日、ご逝去されました。満 79 歳でいらっしゃいました。

先生は大著『日本労務管理史研究』(1964)をはじめ数多くのご著作・論文によって、産業・労働社会学研究に、研究者がたえず立ち返るべき、大きな足跡を残されました。

長い闘病生活をなさっておられましたが、その間にも、新たなご著作を世に送り、また教え子たちの研究や、本会の発展にもさまざまにお心配りいただきました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2. 通信第 21 期第 10 号の訂正

通信第 21 期第 10 号掲載の研究例会〈論文研究〉について、次の 2 点を訂正させていただきます。

1. (1)

(誤) 調整・転換を求める新しい「社会モデル」

(正) 調整・転換を含む「医療・社会の統合モデル」

1. (3)

(誤) 雇用率制度が雇用を促進させたのだという裏づけは何もない。

(正) 雇用率制度は雇用の促進にある程度プラスに影響しているが、今後さらなる拡大に向けて、(高木朋代)

※ 本学会ホームページに掲載されている同号では、すでに訂正が反映されています。(事務局)

3. 大会プレシンプの報告

大会シンポジウム「介護労働の多面的理解」のプレシンプを、9月5日3～6時に青山学院大学15号館の教室で行った。このプレシンプには、シンポジウム報告者4名のうち3名(水野博達氏、阿部真大氏、牟ジファン氏)およびコメンテーターの大槻奈巳氏が出席した(伊藤周平氏は所用のため欠席)。

水野博達氏(社会福祉法人ふれあい共生会)は、ふれあい共生会の事業概要に触れた後、福祉の労働市場の特徴、「福祉人材確保についてのアンケート調査」結果の説明、介護保険導入後の施設系・訪問系介護労働市場の措置時代からの変化、ふれあい共生会の賃金・人事・労務政策の再編について説明した。阿部真大氏(甲南大学)は、介護労働を研究するに至った経緯、ユニットケア(10人ほどの少人数のケアの提供)がケアワーカーに及ぼす影響(働き過ぎにならざるを得ない状況)、ケアワーカーの感情的・肉体的辛さとその対処法、ケアワーカーどうしの仕事観の違い(「主婦と若者」問題)、介護労働者のキャリアラダーと専門性の構築の問題等に触れた。牟ジファン氏(韓国・大佛大学校)は、韓国の介護保険制度の概観を説明した後、施行1年目で見えてきた問題点、とくに制度導入で意図された目的が達成されている程度(例えば、制度導入によって多様なサービスを受けることができたため受給者の身体・認知機能が大きく好転したのか、制度導入により社会サービス分野の雇用創出が拡大したのかなどの問題)について検討した。また、問題の解決策についての提示もされた。

これらの報告に対して、大槻氏より報告者の議論が施設介護に偏っており訪問介護の話がなかったのも、その点を考慮してほしいとのコメントがあった。その後参加者からの質問やコメントが出された。詳細は省くが、介護労働者の労働市場の「市場性」や賃金体系の問題、介護と看護の関係性、介護労働者の仕事に対する意識の多様性の問題、介護保険制度の韓日の違いなどに関する質問・コメントが出された。また、労働社会学会のシンプなので、報告者はもっと労働現場の実態に迫ってほしいとの注文も出された。

(鈴木 玲)

以上